Subject: インドとの協力の進め方、勉強会

Date: Wed, 26 May 2004 15:58:43 +0900

From: "Michio Yamawaki" <myamaw@mug.biglobe.ne.jp>

To: "森 一久" <mori@jaif.or.jp>

森 一久様

お電話を差し上げましたが、お留守でしたので、メールを差し上げることにしました。

① 向坊先生を偲ぶ会の打ち合わせ会で、森様が同郷の先輩でいらっしゃることを知りましたので、一度御挨拶に伺いたいと考えておりますが、今日はそれとは別に、2点教

えていただきたい事がございます。まず、私が部会長をつとめております学会の核燃料部会で、インドとの協力をどのよ

② 次に、新たな燃料などについて、勉強会を始められないかと考えております。トリウム燃料や水素化物燃料などですが、IAEAでの調査などを踏まえて関心をお持ちのか

山脇k道夫

Michio Yamawaki

Prof. Emer. of The University of Tokyo,

Tel&Fax: (+81)-(0)47-345-7038,

E-mail: myamaw@mug.biglobe.ne.jp

9-21-2 Koganehara, Matsudo-shi, Chiba-ken, 270-0021

JAPAN

以下(2)は(2)田村松田の意見も用いた上での本答を記す。

① 政府ではなく学会が主催する以上、インドを招くことに問題は
(2) ないのでは無い。IAEAなどでは日本政府代表とインド代表を
同席して議論している。但し、VISA発給、日本の施設訪問
許可などには政府の問題があり、どうするかは
若干年を待たなければならない。

② Th燃料は日本では殆んど研究されて来なかった。水素化物燃
料は燃料中にH2原子を含まない中核子減速効果も大きく
ない。燃料が少くも20年維持できる。研究は殆んど
終わっている。Puを主としたH2との燃料体系は中核子が減速効果
を高く保つことにより新規燃料の生産が可能になるとは
原産の支援も可能か? 当面は学会ベースの問題で

転

INCなど

合同開催

6/21(土)

はなしてしよう。尚、水素化物燃料など新規の燃料体系を考へる場合、
常に燃料サイクルの問題(廃棄物など)を同時に考慮して必要。
この問題も、以前からJNCで議論されている。是非? 学会も
学会も是非をめぐらして、新聞人にも新聞記者の方にも伝えること